

かほく市手話言語啓発事業

ろう者の女性の生きづらさを繊細かつ強烈な描写で描いた芸術的映画



私たちの痛みを見てほしい —

あたしたちに祝福を

2025年7月12日(土)

石川県西田幾多郎記念哲学館 哲学ホール

監督 横尾友美

ろう者。長崎県出身、京都市在住。映画『LISTENリッスン』に出演したことがきっかけで身体表現に目覚める。映像、写真、舞台などでろう者としての感性、アイデンティティと結ぶ身体表現の活動を行う。

<経歴>

牧原依里・雫境 (DAKEI) 共同監督映画『LISTENリッスン』(2016年) 出演、谷中佑輔舞台作品『空気きまぐれ』(2023年)コラボレーター・出演、短編映像『わたしたちについて』(2023年)監督・制作・出演/第20回さがの映像祭大賞受賞、長編映画『わたしたちに祝福を』(2024年)脚本・撮影・編集・製作

開 場 13:00~

映 画 上 映 13:30~14:30

トークショー 14:30~15:00

お申込・お問い合わせ：かほく市健康福祉課

氏名

住所

TEL

TEL 076-283-7121 FAX 076-283-4116

メール shogai@city.kahoku.lg.jp

お電話またはFAX、メールでお申込みください。

この用紙を、ほのぼの健康館へ、直接持参での申し込みも可能です。
電子申請のQRコードでも申し込み可能です。

必要なサポート

☐手話通訳 ☐車椅子 ☐その他()

情報保障は、
手話通訳のみとなります。
あらかじめご了承ください。



←電子申請QRコード
申込ができます。

STORY

夫を亡くし、過去と現在を行き来する高齢女性、手話が禁じられ、
日本語を身に付けることができなかった母を見つめる娘、
子どもが欲しい女性・・・
3人の女性の繰り返される痛みの先には何があるのかー

MESSAGE

女性であることと障害者であるという理由で裁判において賠償額が減少されたというニュースを知った時、今なお差別が残っていることに衝撃を受けました。幼い頃からろう者コミュニティで強制不妊についてよく聞いており、また学校で手話が禁じられ、多くのろう者が苦しんでいたのも当たり前だと思っていました。しかし、大人になった今、当たり前ではない、女性として、母として、怒ってもいいと思いました。その怒りがきっかけで映画制作へと駆け出しました。この物語には、わたしたちろう者の女性の痛みや愛が詰まっています。3つの物語を通して過去、現在、未来を体感、共感していただけたら幸いです。

(横尾友美監督)

ACCESS



車利用

北陸自動車道 [金沢東 I.C.] — 国道159号線 (約20分)
のと里山海道 [白尾 I.C.] — (約3分)

電車利用

J R 金沢駅 — 七尾線 (25分) — 宇野気駅 — 徒歩20分

